

## スウェーデン、マルメ研修に参加して

佐々木歯科医院

歯科医師 成田久人

スウェーデンが予防大国としての地位を確立している理由を改めて感じさせられる研修であった。

研修の前半で触れられた、歯科医師、衛生士の制度、そして教育プログラム。ここにスウェーデンが長年積み重ねてきた文化の凄みを感じた。

私が大学教育で学んできたことは、現在正しいとされる知識で、それはいつも一方通行であり、相互関係における知識の共有、蓄積であるとか、疑問の提起といったことはほとんど行われていなかった。マルメ大学における教育では、PBL をベースに、知識が与えられるものでなく、自ら学びに行くものだという認識が徹底されていた。歯科医療が生涯学習であることを考えると、学生時代に学ぶべきことというのは、現在正しいとされている知識というのも確かに重要ではあるが、それ以上に、自分が問題にぶつかった時にどうやってその問題を科学的に正しく、そして患者さんに応用できる形で吸収できるかの方がより重要であることがわかった。

ダン先生を初めとする多くの講師陣の講義を受け、全てがエビデンスと深い考察により意思決定がなされていることを感じた。診療ガイドランスというものも多くの EBM に基づき策定されているが、それが全てではなく、参考にするべきものであり、”直感を大事に”という言葉も多く講師が用いていたのが印象的であった。

講義の後半で触れられた保険制度やシステム作りの話があり、R2 システムやキャビテーションシステムなど、個人単位で見ても参考なるシステムの詳細も学ぶことができた。これは将来日本の歯科にとって大変参考になるシステムであると感じた。ただ我々の国はまだその段階にないとも感じた。

研修の全体を通して、根本に患者さんに真の健康を。という思いがベースにあることを感じた。EBM も治療方法も、システム作りもそれを実現するための手段であって、目的ではないことに気付かされた。私自身、日常臨床に取り組む中で、時に手段と目的を混同してしまうことがあるように感じる。研修中に多く用いられた、哲学という言葉。これをきちんと自分の中で大切に、その達成のために今何をしなくてはいけないかを考えて時間を使う必要がある。

過去の歴史を振り返っても、大きな変革というのは政治主導で起こるのではなく、民間が大きなうねりを作り、国がそれに対応せざるを得ない状況ができることで法や制度が変わる。私がやらなくてははいけないことは、自分の哲学を信じ、今回知り合うことができた熱い気持ちを持つ、沢山の同志とともに、このうねりをさらに大きくすべく、行動していくことである。